



おにぎり通信

2017年2月25日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、銀座・日比谷公園、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

<春はそこまで来ています・・・>

厳しい寒さが続いています。来週はもう三月です。「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」という言葉があります。この言葉の意味はこの三ヶ月間はあっという間に過ぎるという意味だそうです。冬は生活するのに大変厳しく、辛い季節ですが、もう少しであたたかくなります。梅の花も咲き、桜の便りもあと一ヶ月しないうちにきこえてくるでしょう。厳しい毎日ですが希望をもっていきたいものです。

☆2月13日(月)の福祉行動報告 どなたもお見えになりませんでした。

次回の福祉行動：2月27日(月)

朝8時30分までに東京駅丸の内南口地下に集合してください。(※集合場所が北口から南口に変更になりました。ご注意ください。)蒸気機関車の車輪が展示してある前に「おにぎり通信」を持った者が待機していますので、声をおかけください。

病院に行きたい方や、体を休めたい方と一緒にご希望の福祉事務所まで、ボランティアが同行いたします。福祉行動は原則として毎週月曜日に行います(月曜日が祝日のときは火曜日)。福祉行動は参加されるそれぞれの方が、ご自身の希望をご自身の言葉でハッキリと伝えることにより成り立ちます。

最寄りの福祉事務所

中央区福祉事務所・・・中央区築地 1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・・・千代田区九段南1-2-1 3階

《「助けて」とこの前いつ言いましたか？》

牧師であり、北九州でホームレス支援をされている、奥田知志さんと脳科学者の茂木健一郎さんの共著、『「助けて」と言える国へ』という本を読みました。

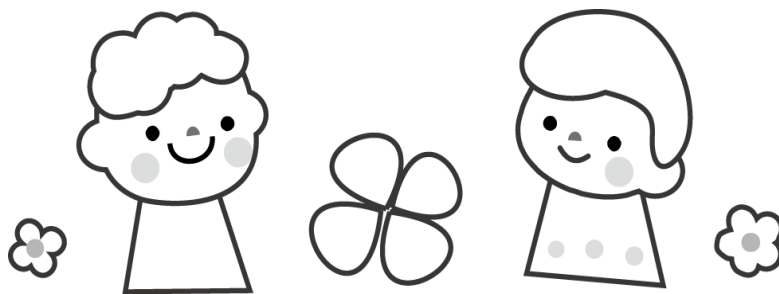
この本によれば、最近の子どもは「助けて」ということがなかなか言えないそうです。なぜ、そうなっているかと言えば、それは大人の社会がそうだから、感受性の豊かな子どもたちは「助けて」と言えなくなってしまうそうです。

これは、数年前に流行った「自己責任」の問題と関係があります。「自己責任」という聞こえは良いかもしれませんが、これは、国や役所や学校といった組織が自ら責任を取りたくないために、ある種の「逃げ」として使っている言葉で、実態は、個人に責任を負わせることによって社会の責任を無化した、社会全体が無責任化したことと深く関係があります。

確かに人は自分のしたことに責任をとらなければなりません、個人が責任をとることができるためには、それをサポートする社会の側のシステムが必要です。そのシステムなしに個人は本当の意味で自分の人生に責任をとることはできません。

子どもの問題で深刻な問題として「いじめ」の問題があります。子どもは保護者や学校の先生に当然「助けて」という必要があります。しかし、何も言えずに死んでいく子どもが絶えない。こんな社会は健全な社会とはいえません。

このように考えると、私たち大人が「助けて」という勇気を持ち、社会全体を変えていく必要があるのではないのでしょうか。「助けて」ということは今の社会では簡単なことではないかもしれませんが、一人一人が変わることで、社会が変わり、他の誰かが救われるのではないのでしょうか。



おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せずに、ゴミ箱に入れるなどして片付けにご協力をお願いいたします。

おにぎりはかならずその日のうちにお召し上がり下さい。

受け取るのは、1人1個をお願いいたします。